所だけでやるのではなく議員、議会、それから市民と一緒になってこういうメニューがあるが何か手を挙げる人いないか、何かいい案はないでしょうかということで進めていければと思います。

少し時間は余りましたが、本日は質問は終わりたいと思います。

以上です。どうもありがとうございました。

**○議長（初村　久藏君）**　これで、脇本啓喜君の質問は終わりました。

---

**○議長（初村　久藏君）**　昼食休憩とします。再開は１時５分からといたします。

午前11時54分休憩

---

午後１時05分再開

**○議長（初村　久藏君）**　再開します。

午前に引き続き、市政一般質問を行います。８番、船越洋一君。

**○議員（８番　船越　洋一君）**　新政会の船越洋一でございます。

一般質問に入る前に、一連の不祥事について、苦言を呈したいとこのように思います。

この件については、昨日７番議員からも指摘がありましたが、私のほうからも苦言を言わざるを得ないとこのように思います。

昨年の一連の不祥事に続き、本年もまた４件の不祥事が発覚し、行政の怠慢さが露呈されました。行政と市民との信頼関係は大きく揺らいでおります。これだけの不祥事が相次いでいるというのに、行政の綱紀粛正が不十分だと言わざるを得ません。職員一人一人が市民の公僕としての自覚を持ち、自分の置かれている立場をしっかりと認識し、その上で職務に当たっていただきたいと、このように思います。

議場にいる幹部職員には部下がそれぞれおると思いますが、綱紀粛正を、規律をしっかり引き締めて、不正をなくすよう徹底して肝に銘じていただきたいと、このように思います。

また、市には職員組合、服務規程は人事課があり、よく協議を重ねて、二度とこのようなことがないよう、職員全体で取り組んでいただきたいと思います。（「そうだ」と呼ぶ者あり）

幹部職員の皆さん、まず顔を上げてください。市長は職員の不祥事のたびに謝り、また、昨年の不祥事の折には給料の５０％カット、１年間。副市長においては給料の５０％カット、半年間しており、謝罪もしております。本来、市長は謝るために市長になったわけではなく、この対馬を豊かにしたいという一念で日々精力的に活動されておりますが、市長の足を引っ張っているのは職員だと言わざるを得ません。

しかし、市長も一人では仕事はできないわけで、信頼できる職員がいて目的が達成できると思います。市長と職員が一丸となって、信頼回復に取り組んでいただきたいと思います。よろしく

お願いをしておきます。

我々議会もチェック機能をしっかりと発揮するようになっておりますけども、予算、決算だけをチェックするのではなく、市政全般にわたってチェックをさせていただくのが我々議員の仕事であります。そこら辺もしっかりと肝に銘じておいていただきたいと、このように思います。

それから、またこのたびも市長の給料のカットを考えているようですが、給料のカットは必要ないと私は思います。

それでは、一般質問に入らせていただきます。

さきに通告をしておりました３点について、市長の考えを伺います。

まず１点目の漁業の振興策についてでありますが、御承知のように、対馬は四方海に囲まれ、古くから漁業が盛んで、対馬の基幹産業でありますが、近年、燃油の高騰、気候変動等により、海水温の変化により漁獲量の減少等が危惧され、後継者不足も問題視されておりますが、市長はこの現状をどのように把握され、今後どのような支援策、振興策が必要だと思うか、市長の考えを伺います。

次に、２点目の、韓国人観光客の受入れについてでありますが、日本と韓国との諸事情により、韓国人観光客は３年間、皆無の状態でありましたが、本年５月から、韓国からの観光客も少しずつではありますが入国しており、現在、韓国の船会社が２隻体制で運航されております。運航当初は土日だけの運航でしたが、現在は毎日運航され、徐々に観光客も増えておりますが、また、厳原港国際ターミナルの完成も間近だと思いますが、現状のこの２隻体制で、厳原までの運航は可能なのか、今後の見通しについて、市長の考えを伺います。

次に、３点目でございますが、市政と区長制度の在り方について伺います。

現在、島内の区割は１８１区あると思いますが、行政と区民とのパイプ役として日々御苦労をしていただき、様々な問題にも取り組んで解決もしていただき、また地域の要望、陳情等も行政のほうに数多く上がっていると思いますが、行政と区長との意思疎通は取れているのか、不満等はないのか、これも市長にお伺いをいたします。

以上３点、よろしく答弁お願いします。

**○議長（初村　久藏君）**　市長、比田勝尚喜君。

**○市長（比田勝　尚喜君）**　船越議員の質問にお答えいたします。

初めに、漁業の振興策についてでございますが、対馬市の基幹産業であります水産業においては、近年、海洋環境の悪化等による水産資源の減少及びＴＡＣ制度による漁獲規制等に加えて、漁業者の高齢化及び後継者不足が深刻な課題となっております。併せて、燃油高騰や輸送コスト増大も大きな負担となっており、非常に厳しい状況が続いております。

中でも磯焼けの拡大は深刻な問題であり、温暖化や植食性動物による食害等複合的な要因によ

り、藻場を取り巻く環境は、この２０年近くの間に大きく変化をしております。以前は貴重な直接収益資源でありましたヒジキやカジメ、アラメ等の大型褐藻類は壊滅状態であり、サザエ、アワビも餌料の減少に伴い激減しております。また、漁業者の減少にも歯止めがかからず、昭和５０年の８，３９１人をピークに４３％まで減少しており、高齢化についても、令和４年度現在、組合員数３，６３７人のうち、６０歳以上が７０％を超えるなど深刻な現状となっております。

このように、厳しい水産業における喫緊かつ重点課題として、海洋環境の変化も踏まえた藻場回復対策や資源の減少が懸念される中で、効率的でもうかる漁業推進のためのコスト縮減対策等があり、これらの課題に対し、地元の意見・要望等を聞きながら重点的に取り組んでいるところでございます。

具体的には、磯焼け対策として補助事業を活用して、藻場衰退の一因とされるイスズミ、アイゴ、ガンガゼの駆除を継続しながら、新たな水産資源として認知していただくために、未利用魚のＰＲ活動、新商品開発、販路拡大等への支援に努めております。

次に、コスト縮減対策については、継続する燃油高騰対策や離島が抱える輸送コストへの負担軽減のため、支援を継続してまいります。さらに、今後は近年、注目されております豊かな自然や漁村ならではの地域資源の価値や魅力を生かした海業振興にも積極的に取り組んでまいります。

脇本議員の質問の際にも申し上げましたように、令和５年３月に海業振興のモデル地区として全国で１２地区が選定され、長崎県では唯一、上対馬町漁協管内が選定されております。対馬が有する自然・歴史・食のポテンシャルを最大限活用し、対馬の海の魅力を新たな観光コンテンツとして醸成することで、各業界が融合した一体的な対馬の魅力発信基盤として確立できるよう、各種補助事業等を活用しながら海業振興に努めてまいります。

また、新たな取組として、２０５０年カーボンニュートラルの実現に向けて経済産業省所管のグリーンイノベーション基金が創設され、農林水産業分野として海藻バンク整備技術の開発部門で、令和４年１２月に全国５地区が選定されました。その中で、上対馬町漁協管内が選定されており、上対馬町豊地区を実証フィールドとして、２０３０年までの計画で海藻バンク技術の研究・開発が行われることとなっております。対馬市の磯焼け対策にも大きく寄与するものと考えられており、地元と連携を図りながら事業を推進するとともに、これらの新規事業が定着することで、新たな雇用の創出や後継者対策にもつながることから、重点施策として積極的に取り組んでまいります。

次に、２点目の韓国人観光客の受入れについてでございますが、休止となっていた国際航路は、２月に条件付きで制限が緩和されて以降、２社による２隻体制で運航が再開され、５月８日以降は制限が解除されたため、毎日の運航が行われているところです。また、もう１社、参入の意思をもって準備を進めていることを把握しているところであります。

現在、航路利用率は土日で約７割程度、平日は５割に満たない状況であります。６月上旬にも、観光交流商工部の職員が韓国に出向き、航路事業者及び旅行者に対し、韓国人観光客のマナーの再周知や、今後の観光需要の見込みなど、状況把握を行っております。航路事業者及び旅行者は、今後の動きとして、個人客の需要拡大を見込んでおり、航路事業者では特に平日運航の利用率の向上に傾注している状況であります。

また、航路事業者は、過去の安売りによる運航で、対馬での食や宿泊のサービスを受けられない状況が発生していたことを反省し、上質なサービスの提供を方針として掲げているなど、過去の教訓を生かした強い姿勢が伺えたとの報告でありました。

航路事業者及び旅行者による今後の見通しは、韓国内の経済情勢、旅行先の多様化により、急激に対馬への観光の需要が伸びるのではなく、徐々に増加する傾向の見方をしているところであります。

対馬は、韓国人の観光において、韓国から一番近い日本の文化を体験できるところとして、旅行先に選んでいただいているようであります。市としましても、今後は観光事業者の受入れ体制の充実を図ってまいります。

次に、３点目の行政と区長制度の在り方についてでございますが、まず、区長にお願いしている事項につきましては、市の事務補助をお願いする事項として、市からの連絡事項の周知徹底や協力、各行政区における取りまとめなどを担っていただいているところでございます。その中で、各行政区から陳情・要望等が提出されているところであり、市としましては、その内容を担当部局において検討し、全体的な観点から優先順位と財源等を調整した上で対応させていただいております。

しかしながら、陳情・要望も多く、地域においては市の対応が不十分であるとの御指摘等もいただくわけでありますが、緊急性や市民の生活における重要性を加味しながら対応しているところでございます。その地域で生活していく中で、危険性や不便等を感じておられることは十分承知しておりますので、その他の改善策、対応策を検証し、より地域に根差した対応策を目指す必要があろうかと考えております。

最後に、区長と行政との意思疎通についてでございますが、区長からの御意見等を踏まえ、それぞれの担当部署において可能な範囲で丁寧に対応させていただいているところではございますが、今後においても、地域と行政のパイプ役でもある地域マネジャー制度の機能を十分に活用し、区長を含めた地域住民との連携を図りながら、それぞれの地域の生活安定に向けて対応してまいりたいと考えております。御理解をお願いいたします。

以上であります。

**○議長（初村　久藏君）**　８番、船越洋一君。

**○議員（８番　船越　洋一君）**　まず１点目の漁業の振興策についてお伺いします。

今、市長の答弁の中では、イスズミとかそういうものについては、地域の漁協の皆さんと取り組んでいるということなんですが、私が言いたいのは、それも大変必要なことです。しかしながら、今、漁業をされている方が、一本釣りをして帰って来て、それには氷を積んでいかないといけません。箱も買わないといけません。燃油も高騰しております。そういう状況の中で、漁師さんたちは漁に行きます。帰ってきて、組合にあげます。あげたら組合には手数料が要ります。それから今度は福岡に運びます。輸送費もかかります。そうすると、福岡の魚市場に行って、また手数料がかかります。県漁連の手数料も絡んでくると、このように思いますが、一番捕ってくる魚を漁師さんが捕ってきたのに、その人たちの実入りが少ないんじゃないかという懸念があるんです。それをしっかりと組み立ててやらんと、漁師さんたちの実入りが少ないんです。だから後継者を育てようとしますが、息子さんたちが親の漁師をしている、その親の姿を見て、漁師をしてても結局実入りは良くないというふうな状況があるのではないかと私は思うんです。だから、私が言いたいのは、そういうところにもう少し目をつけるべきじゃないかなと思います。

確かに先ほど言われましたように、磯焼け対策も大変でしょう。しかしながら国からの補助金をいただきながら、国の施策として魚礁もたくさん入れていただいております。しかし魚を捕ってでも、その魚が漁業の皆さんの実入りに跳ね返ってきているのかというところをしっかりと検証をしていただきたい。それをしっかりやらないと、今からの漁業というのは成り立っていきません。まずそれを答弁願います。

**○議長（初村　久藏君）**　市長、比田勝尚喜君。

**○市長（比田勝　尚喜君）**　まず、このコスト削減関係で輸送費関係の助成の件については、既に御承知のこととは思いますけれども、国費、県費、市費を含めて８割を補助しているということで、このことにつきましては、漁業関係者の方からも広く感謝をいただいているところでございます。

そしてそのほかの手数料等の関係につきましては、ここはもう漁協、そしてまた県漁連との関係ございますので、なかなか市のほうが介入しづらい面もあるということで、御理解をお願いしたいと思います。

そういった中で、今、議員のほうから漁業者の実入りが少ないんじゃないかというような御指摘がございました。これで、私もここは気になっていたんですけれども、実は今、漁業の水揚げ、そしてこの陸揚げ金額等を見てみますと、確かに水揚げ量は減っているんですね。ただし、このコロナ禍で漁価が上がったということ、そしてまた流通体制の関係でかなり漁価が上がってきております。それで、水揚げ額としましては、令和３年度から令和４年度と比べましたら、全体で２８億円ぐらい。これは陸揚げ金額として上がっております。そういう関係で、漁業者の皆さん

にとりましては、ここは今、大変、一安心しているというような話も聞いているところでございます。

ちなみに、ちょっと主なところを申し上げますと、アマダイにつきましては、今までキロ２，０００円台だったのが３，０００円ぐらいになって、プラス５０％ほどになっているということでもありますし、サザエもキロ６００円が、キロ１，０００円まで跳ね上がっていると。そして、一番、対馬の漁業者にとりまして、大きなヤリイカにつきましても、プラス３２％ぐらいの値上がりがしているというようなことで、経営的には少し安心できたのかなという思いを持っているところであります。

**○議長（初村　久藏君）**　８番、船越洋一君。

**○議員（８番　船越　洋一君）**　確かに漁獲量、それから漁価については、変動があります。変動がね。だから気候変動のおかげで、いろいろ魚種にも制限がかかってくる可能性もあります。ですから、そういうことも踏まえた中で、漁師さんたちはそこら辺は気候のことはよく承知していますのでね。市長も水産関係は詳しいはずなんですが、やはりそういうところにしっかり目を向ける必要もあろうかと。これは対馬の基幹産業ですから、やはりしっかりと下支えをしてやる必要があると思います。

私からのちょっと提案があるんですが、これをちょっと市長、見てください。これは、五島から韓国釜山に向けて活魚を出している。ところが、この２０１８年には２２６トン輸出されている。ところが、２０２２年には１，１９７トン輸出されている。これは主にブリなんですけどね。だけども、一番地の利の近い対馬が、そういう活魚等を、釜山の３００万都市があるのを控えておきながら輸出ができていない。それも遠く離れた五島がこれを先進的にやっているということを聞きましてね。これは長崎税関の資料なんですけども、この五島から韓国に輸出するには、長崎税関に寄って、そこから税関の検疫を受けて釜山に持っていく。で、巨済島の近くの統営という港に運搬するらしいんですがね。だからそこら辺を、やはり、対馬からそれをやるということになりますと、今、去年で、金額は１８．７億円出てるんですよ。これはね、対馬の漁業にとっては一つの方法だろうと、こう思うんですね。だからそういうことも含めた中で、例えばこれをやるには活魚船が要ります。活魚船の漁協ともしっかりお話をしないといけないと思うんですが、そこら辺をしっかりと組み立てた中でやっていく必要があろうかと思います。

それと、先日、釜山の日本総領事館の次長をしているペ・サンポンという方とお会いをしまして、韓国の市場がどうですかと、今、調査をしていただいております。業者のほうにしてみますと、対馬産の魚は大歓迎だということなんです。受入れ先もありますということなんです。しかし、まだまだそこら辺まで私も話が進んでないから、もう少し調査をしとってくださいというお願いはしております。こういうことをしっかりやっていくことによって、一つは漁業の皆さんの

売上増にもつながっていくんじゃないかなと、こう思うわけです。例えば活魚船の運搬船を入れるにしても、それはリースすることも可能でしょう。しかしながら、対馬の場合は国境離島新法もあります。それから離島振興法もあります。そういうふうな制度事業をうまいこと使いながら、それが購入できて、それが漁協でそれを対応するというようなシステムづくりは後にして、行政と民間が一緒になって取り組んで、こういう事業はやるべきだと私は思いますが、市長の考えをお聞きします。

**○議長（初村　久藏君）**　市長、比田勝尚喜君。

**○市長（比田勝　尚喜君）**　御提言ありがとうございます。

私も実は、この五島が韓国に活魚として輸出しているということは分かりませんでした。そういうあれで、議員おっしゃられるように、位置的な関係から言えば、むしろ、対馬から出すべきというふうに思っております。

また、今現在の、対馬の養殖ブリの現況等も把握しながら、このブリを活魚として、韓国のほうに輸出がどういったルートで運べるかということも踏まえながら研究を、早急に研究をしたいというふうに思っております。

**○議長（初村　久藏君）**　８番、船越洋一君。

**○議員（８番　船越　洋一君）**　市長、対馬はですね、マグロの養殖も盛んなんです。韓国にはマグロがない。それで、本来、今、日本の市場を見ますと、冷凍のマグロなんです。生のマグロじゃない。ところが、対馬から韓国に持って行くって言っても、２、３時間でしょう。船で運搬しても。そうすると、生でできるんですね。生の魚が持っていけると。で、マグロというのは、その、締めてすぐよりも、四、五日置いたほうがおいしいということもお聞きします。そうすると、ちょうどいい時期に向こうに入っていくんですね。だから、そこら辺もしっかり踏まえた中で、今後、市長、この問題にしっかり取り組んでいきたいという気持ちはありませんか。

**○議長（初村　久藏君）**　市長、比田勝尚喜君。

**○市長（比田勝　尚喜君）**　実は、私も福岡のほうの福一漁業の社長さんとお会いしたときに、いろいろと御指導をいただいたんですけども、実は、韓国のほうは、サバは食べても、アジはあまり韓国の方は食べられないそうなんですね。それで、韓国の方のまき網等で上がったアジは、本当に安い単価になっているというようなことで、できたら、この、対馬、九州から韓国にマグロとか、またそういった魚を輸出をして、帰りには逆に、そのアジを輸入すれば、効率的な輸出入ができるというようなお話もいただいていたところであります。

そういうこともありまして、今、議員がおっしゃられるように、このことにつきましては早急に研究をして、実施に向けて取り組みたいと思います。

**○議長（初村　久藏君）**　８番、船越洋一君。

**○議員（８番　船越　洋一君）**　これはですね、非常に大変な問題だろうと思いますのでね、しっかり取り組んでいただきたいと、このように思います。

それから、この活魚を運搬するには、いろいろな問題もありますが、今現在、対馬から韓国の釜山向けに出している業者の話を聞きますと、対馬で活魚船に積んで、それから福岡までフェリーで行って、福岡からフェリーでまた韓国まで持って行く。そうしますと運賃だけで３０万から３５万かかると言うんです。そういうふうな運賃をかけてまで持って行っておる業者もおるんですが、それでは採算合いませんよ。ですから、それを活魚運搬船で持っていくと格安でできることになりますし、漁師の皆さんも喜んでくれると、このように思いますので、先ほど市長が答弁されたように、早急にそこら辺を調査をしていただいて、できるようにひとつよろしくお願いをしておきます。

それから２点目の、韓国人観光客の受入れについてですが、この韓国人観光客の、今現在の一人当たりの運賃、これがものすごく高いんですね。今、２隻体制なんです。そうすると、４１万人ぐらい入って来とったときには、往復四、五千円で来れたものが、今８，０００円、１万円なんですよ。福岡のほうに行くと、福岡まで行く船もありますが、福岡まで行ってでも８，０００円から１万１，０００円で今現在、行ってる。そうしますと、対馬と変わらないんです、値段。かえって対馬のほうが高いんです。対馬が、週末は１万６，０００円から１万９，０００円、それと平日で８，０００円から１万円。こういう値段ですから、対馬に来るよりも福岡に行ったほうがいいという観光客も多いと思うんですよ。ですから、そういうことを解決するには、船が今２隻体制ですから、これを３隻、４隻に増やしていくと競争原理が働きますので、もう少し安くなってくるというのは、市長もよくよくお分かりだろうと思いますが。ましてや、今度は厳原港の国際ターミナルビルができます。こうしますと、２隻体制で果たして厳原まで来る船はおるのかなと、これも心配されます。確か、ＧＢＫという会社、これは市長も御存じだと思うんですが、接触はされたと思うんですけどね。やはり、そこも今、対馬向けに船を出したいという意向があるということを聞いております。そういうところにもしっかり対応していって、１隻でも多く船が通うような方策をぜひ取っていただきたい。そうしないと、対馬の韓国の旅行客は増えません。観光交流商工部長、いかがですか。今、私がるる説明をしていますが、そのとおりだと思いませんか。答弁してください。

**○議長（初村　久藏君）**　観光交流商工部長、村井英哉君。

**○観光交流商工部長（村井　英哉君）**　お答えいたします。

確かに、船会社等の自由競争による運賃等が低廉していけば、お客様が増えることは確かだと思っております。ただいま２隻が、今、説明しますように通常運航しておりますけれども、この先は３隻目の候補の会社もあるというふうに議員も今おっしゃいましたように。そこら辺は許可

等がどの段階までで早く取れるのかというような話も聞いておりますので、そういった決まりの中で第３隻目がまた入ってくれればありがたいところでもありますが、その辺は港湾との兼ね合い等もあると思いますので、そういうふうに思います。

ただし、ただ先ほど市長からも答弁がありましたように、過去４１万人おいでいただいたとき、確かにありがたいお話なんですけれども、当時は言葉とすればオーバーツーリズムということで、一つは環境のほうにも一部そういう支障があったり、受入れ体制がうまくいかずに、おもてなしがうまくいかなかったりということもあっておりました。そういったことを今回、観光商工課長と文化交流課長が釜山に出向きまして、船会社、それから旅行会社にいろいろお話を聞いてきております。

今後は数も大事なんですけれども、おもてなしも含めた価値のある旅行商品をということで、船会社のほうもなるべく運賃については安くだけではなくて、なるべく現状を、競争の中でも現状をお互い保ちながら、そして、対馬にいい旅行をしてもらう、そういう中身の濃いものにしていきたいというふうなこともおっしゃっておりますので、ひとつそこは数も大事ですけれども、中身を観光としては重視していきたいというところもございます。

以上です。

**○議長（初村　久藏君）**　８番、船越洋一君。

**○議員（８番　船越　洋一君）**　確かに言われるとおりだと思いますが、観光客が対馬に来て、果たして喜びますかね。観光地は整備できてますか。よりいい商品を作りたいということですが、日本人の観光客にしても、韓国人の観光客にしても、周辺整備がしっかりしてないところに行きませんよ。それは行政のすることです。だけども、私たちが言いたいのは、要はそういうところは行政のほうでしっかりやった中で、そういう船を増やしていくことによって、韓国人観光客がより一層多く入ってくるように努力もせないかん。こういうふうに思います。

私が調べた中では、平成２３年から令和２年までの間に、韓国人観光客は２０８万５，５３５人入っている、１０年間で。それで、比田勝港に入ったのは、１４１万１，３１４人。厳原港が６７万４，２２１人。こういうふうな、あれも出てるんです。ですから、そういうことも含めた中で、今度、厳原のターミナルビルもできるわけですから。今、ＧＢＫの中を少しお聞きをしたんですが、比田勝には週４回、厳原には週２回。言いますと、厳原港の国際ターミナルビルが例えば１０月にオープンしたにしても、週に２回しか入ってこないことになる。そういうことも踏まえた中で、韓国の船会社、旅行会社、そこら辺に猛アタックをして、そして少しでもそれがなっていくような方向づけを考えないと、せっかく作った国際ターミナルビルは無駄になります。そういうこともしっかり踏まえた中で、今後、対策を練っていただきたいと思います。市長どうでしょうね。このＧＢＫの船会社には、市長がもう少しアタックしてみたらどうですか。それで

週に２回ぐらい厳原に入ってきても、厳原のほうはさびれていきます。確かに比田勝に入っていただいて、比田勝のほうは北の玄関口ですから、そこは確かにしっかり反映してもらわないといけませんけども。しかしせっかく厳原のほうも国際ターミナルビルの完成が間近にして、そういう風な状況では先行きが危ぶまれます。御答弁をいただきます。

**○議長（初村　久藏君）**　市長、比田勝尚喜君。

**○市長（比田勝　尚喜君）**　確かにですね、このグローバルベストコリアさんですかね、社長さんともお会いいたしました。社長さんの意向では、できるだけ早い時期に対馬との航路をつくりたいというような話でございましたが、旅客船のほうはある程度、見通しは立っているという話は聞いておりますけど、何か聞くところによりますと貨物船の関係も一緒に考えていらっしゃるらしくて、この貨物船の関係が、韓国の当局の関係からの許可がなかなかちょっといまだ難しいというようなことも聞いておりますので、ここは粛々と進めていただければというふうに思っております。

それと、厳原への航路の関係ですけども、要は今、国際ターミナルを整備しております。そして改修棟のほうも整備をしておりますが、最終的にこの令和５年度中には何とか完成する予定となっておりますし、その後２か月から３か月程度、ＣＩＱ等の引っ越し作業とか何かそういうところもあって、令和６年度の４月からすぐには移転は難しいという話もちょっと聞いております。ただ、できる限り早い段階で、厳原港の国際ターミナルが使用可能となるようにということで進めてまいります。

それと、あと１点が、船が増えてくることは大変喜ばしいことなんですけど、これが、比田勝港じゃなくて直接厳原港に入るときは、確かに厳原港のほうでは乗降客が増えるものとは思いますけども、対馬の経済を全体的に考えたときは、大方は比田勝港で降りられてもバスで厳原のほうに向かわれるお客さんが多数というか、大方ということで聞いております。そうなりますと、やはりそこにはバス会社等も運行料等が入りますので、直接、厳原港に入るよりも比田勝港を経由してそしてバス等を使用されるほうが、対馬市の全体の経済を考えたときにはちょっと有利かなというふうには私は考えてはいるところでございますので、そこら辺につきましてはまた御理解もお願いしたいと思っております。

**○議長（初村　久藏君）**　８番、船越洋一君。

**○議員（８番　船越　洋一君）**　今、韓国の観光客が来るにしてもツアー会社、ここがまず入ってくるには比田勝港に入るわけですから、そうするとバスのチャーターをしなきゃいけない。それが確保できないと旅行客を募集できないんです。ところがバスの運転手が少ないために、そのバスの予約が取れないということなんです。だからそういうことも生じているということも承知をしていただきたい。ここら辺にもやはり目を向けて、やっぱりそこら辺ができるような方向も行

政としてしっかり取り組んでいただきたい、このように思います。

それから３点目の区長制度の在り方についてでありますが、私のところにもいろいろ、いろいろの問題が上がってきております。

市長の先ほど説明は受けましたが、要は、地域マネジャー制度というのはありますが全く機能してないところがたくさんあります。区長さんと行政とのパイプ役として地域マネジャー制度という制度をいい制度を作ったんでしょうが、現実的にはそれが機能してないという傾向もあります。区長さんたちが一番こう思ってあるのは、区長さんが行政に行って話をしてもなかなか上まで上がっていかない。市長のところにはそういう話は来てないでしょう。全く来ないでしょう。だから離れていくんです。これ、区長さんがおらないようになったら行政がせないかんことになる。今、区長さん１８１戸ありますかね、５千何百万か確か経費がかかると思うんですが、そういう問題じゃないんですね。この人たちがおってくれて地域を守ってくれるから行政がスムーズにいくんです。それには区長さんたちとの連携、そこら辺がしっかり取れないとだめなんです。それを不信感を持ったんでは不平不満が出てきます。それをなくすためにはどうせないかんと思いますか。

**○議長（初村　久藏君）**　市長、比田勝尚喜君。

**○市長（比田勝　尚喜君）**　確かにこの近年、地域マネジャー制度が若干、弱体化しているのかなという思いを持っておりますので、再度、また地域マネジャー制度については引き締め策と、それとまたこの活性化策を図ってまいりたいと思っておりますし、この区長さんたちの要望につきましても私のところまで要望書は全部回ってきますので、私も大方目を通して、特にここはちょっと職員から上がってくる対策では物足りんと、ここはもう金は少々かかってもやれというような指示を赤書きをして回しているところでございますけれども、できる限りこの今後の補正予算につきましても要望等に応えられるように努めてまいりたいと思っております。

以上であります。

**○議長（初村　久藏君）**　最後です。８番、船越洋一君。

**○議員（８番　船越　洋一君）**　維持管理費と言いますかね、区長さんたちが地域のことで要望を上げてくるその金、その金は少ないんですよ、予算が。ですから不満が出てくるんですよ。そこら辺をしっかり見直していただいて、そこら辺の事業費を、予算をもう少し上げて、できるだけのことを区長さんたちの言ってこられること全部ができるわけいきませんが、できるだけ吸い上げて、気持ちよく区長さんたちが地域のことに取り組んでいけるようにお願いします。

終わります。

**○議長（初村　久藏君）**　これで、船越洋一君の質問は終わりました。